

オペレーターズマニュアル

HE482

パワーバケット





すべてのマニュアル
を見る



最新のオペレーターズマニュアルはこちらへ：
ventrac.com/manuals

パーツマニュアルもダウンロードできます。

500 Venture Drive
Orrville, OH 44667
www.ventrac.com

オーナー様へ ご連絡をいただく際に必要となる情報

製品の修理等について、Ventrac 正規販売店にお問い合わせされる場合は、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

以下に必要情報をメモしておきましょう。製品の銘板は、下の写真に示す位置にあります。下のメモ欄に記録しておいてください。

購入日: _____

販売店名: _____

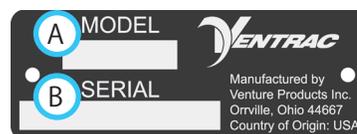
販売店の所在地: _____

販売店の電話番号: _____

販売店の FAX 番号: _____

モデル番号 (A): _____

シリアル番号 (B): _____



Venture Products Inc. は、設計・仕様を変更する権利を留保します。弊社は、過去に製造された製品に対してかかる変更を行う義務を負いません。

目次

はじめに	ページ 4
製品の説明	4
オペレーターズマニュアルが必要な理由?	4
マニュアルのご使用方法	5
マニュアル用語	5
安全関係	ページ 6
基本的な安全対策	6
必要なトレーニング	6
個人用保護具 (PPE) の装着義務について	6
運転時の安全確保	6
人を乗せない	8
傾斜地での運転	8
トラックやトレーラによる搬送	9
メンテナンス	9
燃料の安全について	10
油圧機器の安全について	11
HE482 の基本的な安全対策	12
安全デカル	13
運転装置	ページ 14
一次 SDLA コントロールレバー	14
二次 SDLA コントロールレバー	14
デュアルフロント油圧補助スイッチ	14
運転操作全般について	ページ 15
日常点検	15
アタッチメントの取り付け	15
アタッチメントの取り外し	15
バラ資材や軟弱資材をすくい取る操作	15
バラ資材を広げたり均したりする操作	16
グラップル (オプション) を使って丸太や枝をつかんで運ぶ操作	16
整備	ページ 17
機体の清掃と一般的な保守整備作業	17
潤滑ポイント	17
格納保管	17
パワーバケット用の爪 (オプション) の取り付け	18
パワーバケット用の爪の取り外し	18
グラップル (オプション) の取り付け	18
グラップルの取り外しと保管	19
整備スケジュール	20
定期整備チェックリスト	20
仕様	ページ 21
HE482 の諸元	21
パワーバケットの角度および地上高	21
特長	21

はじめに



Venture Products Inc. より、謹んで Ventrac の新しいパワーバケットをお届けいたします!Ventrac の機器が、お客様にワントラクタソリューションをお届けできることを祈念しております。

お買い上げいただいたパワーバケットと組み合わせ可能な製品すべてを、弊社ウェブサイトでご覧いただくことができます。正規販売店でもご紹介可能です。

	説明	パーツ番号
アクセサリ	パワーバケット爪キット	70.8124
	パワーバケット グラップルキット*	70.8123
	パワーバケット延長キット*	70.8159

*バケット延長キットとグラップルキットを同時にバケットに取り付けることはできません。

製品の説明

Ventrac のパワーバケットは、土やマルチ、砂、砂利などを、掘ったり、すくったり、運んだりするためのアタッチメントです。バケットは油圧コントロール式で、スムーズな動作と楽な操作が特長です。バケットを切り離して床面に置くと、次回に取り付ける時にリフトアームがちょうど良い位置にくるように設計されています。

重量移動システムを装備したパワーユニットで使用する場合、重量移動設定を上げるとパワーバケットの吊り上げ能力が大きくなります。

バケットの先端部に、オプションの爪を取り付けると、固く締まった土を砕いてほぐすのに便利です。

オプションの延長キットをパワーバケットに装着すると、マルチなどの軽い資材を扱う時にバケットの容量(すくい取り体積)を増やすことができます。

オプションのグラップルキット[^]を取り付けると、丸太、木の枝、大きなごみなどをパワーバケットで挟んで運ぶことができます。

[^]オプションのグラップルキットを使うには、パワーユニットが補助油圧デュアルカップラを装備していることが必要です。

オペレーターズマニュアルが必要な理由?

このマニュアルは、お買い上げいただいた機械を安全に運転操作し維持管理するために必要な重要な知識を身につけ、けがや製品の破損を防止するためのものです。知りたい情報をすぐ探せるように、いくつかの章に分けて作成されています。

Ventrac の機器それぞれについて、該当する取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してください。マニュアルをお読みにすることで、それぞれの機器に精通することができます。マニュアルが破損したり読めなくなったりした場合は、すぐに交換してください。お近くの Ventrac 売店で新しいマニュアルを入手していただけます。

Ventrac のアタッチメントを使用する際は、パワーユニットとアタッチメントの両方のマニュアルを読んで安全確保と正しい運転操作について学び、安全作業を心掛けてください。

このマニュアルには、機械の最も安全な運転方法と、機械の性能をを最大限に引き出すための情報が掲載されています。記載されている安全上の注意事項を守らないと、人身事故や機器の故障・損傷の原因となります。

はじめに

マニュアルのご使用方法

このマニュアルでは、人身事故や機械の損傷などを起こすことなく製品をお使いいただくことができるように、安全上の懸念となるような潜在的な危険について説明しております。機械をお使いいただく際は、常に安全第一を心掛ける必要があります。適切な作業手順を守り、十分に運転操作経験を積んで、事故防止に努めてください。

記号の説明



この記号は健康や安全に関する危険が潜んでいることを意味します。すなわち安全に関わる注意事項をお伝えするものです。あなたと他の人の安全に関わる内容です。

危険の度合いを表す3種類のキーワードがあります。危険、警告、注意、です。

キーワードの意味

⚠️ 危険

危険は、人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こります。危険の度合いが非常に大きい場合に、この言葉が用いられます。

⚠️ 警告

警告は、人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こる恐れがあります。

⚠️ 注意

注意は、安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがや物損事故をおこす可能性があります。安全でない行動や取扱い方法に対して注意を促す場合にも用いられます。

この他に2つの言葉で注意を促しています。**注意事項**は、製品の機械的特徴などについての注意点、損傷や失敗を避けて手際よく作用するためのコツなどを示します。

注はその他の一般的な注意点を表しています。

注:このマニュアルでは、左右を表す方法を以下のように統一しております。左右は常に運転席に座って前を向いている状態を基準として表現されます。

マニュアル用語

- パワーユニット** Ventracトラクタやその他のVentrac製品でエンジンを搭載して自走することが可能な機械。アタッチメントやアクセサリを搭載することができる動力機械。
- アタッチメント** Ventrac製品のうちで、パワーユニットによって駆動させる機械。
- アクセサリ** パワーユニットやアタッチメントに取り付けて使用する機械。
- マシン** パワーユニットと共に用いられるアタッチメントやアクセサリ。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

必要なトレーニング

- 本機のオーナーは、オペレータに適切なトレーニングを施すことについて全責任を負います。
- 本機のオーナー・オペレータは、本機の運転操作に伴って発生する、すべての人身事故・物損事故の防止および結果について全責任を負います。
- トレーニングを受けていない人や子供に運転操作をさせたり修理整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 本機を運転する前に、オペレーターズマニュアルを読んで内容を十分理解してください。
- オペレータがマニュアルの内容を理解できない場合は、オーナーの責任において、内容を十分に理解させてください。
- 運転に必要なすべての装置について、その使い方を学び、理解してください。
- パワーユニットやアタッチメントを緊急停止させる方法を知っておいてください。

個人用保護具 (PPE) の装着義務について

- オーナーは、本機を運転するすべてのオペレータに、適切な防具 (PPE) を着用させる責任があります。本機を使用するときは、必ず以下の PPE を使用してください。
- 目 (視覚) と耳 (聴覚) の保護具 (認定品)。
- つま先が閉じている滑り止め機能のある履物。
- 長ズボン。
- マスク (ほこりの多い場所で作業する時)
- その他、状況に応じて必要となる保護具。その他の要件については、製品の安全についての章を参照してください。

運転時の安全確保

- 長い髪は束ねてください。だぶだぶの服装は避けてください。アクセサリは身に着けないでください。
- 運転前点検を行ってください。破損したり欠落、摩耗している部品は交換してください。ガードやシールド類がすべて適正位置に取り付けてあり、正常に機能することを確認しましょう。運転に必要な調整は、運転開始前に済ませましょう。
- 本書では、説明の都合上、シールドやカバーを外すなどした写真を使用していることがあります。どんな場合にも、運転時にはシールドやカバーを必ず取り付けてください。
- 本機に改造や変更を加えると、安全性が低下し本機を破損させる恐れがあります。安全装置を改造しないこと、シールドやカバーを外したままで運転しないことをお守りください。
- 毎日の運転開始前に、運転装置がすべて正しく機能すること、安全装置がすべて正常に機能していることを確認してください。運転装置や安全装置が正常に機能していない場合は、運転しないでください。
- 運転前に、駐車ブレーキの機能点検を行ってください。必要に応じて駐車ブレーキの修理や調整を行ってください。
- 安全デカルに記載されているすべての注意事項を守ってください。
- どの運転装置も、運転席以外からは操作できないようになっています。
- RPOS 搭載機では、ROPS を真っ直ぐに立てた状態で固定し、必ずシートベルトを着用して運転してください。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- 運転前に、アタッチメントやアクセサリがパワーユニットに確実に取り付けられていることを確認してください。
- 運転開始前に、パワーユニットとアタッチメントの周囲に人がいないことを確認してください。作業場所に人が入ってきたら機械を停止させましょう。
- 運転操作に集中しつつ、常に周囲の状況に注意を払ってください。常に機械の進行方向を注視してください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- マシンが何かにぶつかったら、すぐに停止して点検してください。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- 故障や破損の気配に気づいたら、直ちに運転を停止してください。運転音が通常と異なるのは破損や故障の徴候の場合もあり、また整備をすれば直る場合もあります。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ハイ・ローレンジ機能のあるマシンの場合、傾斜地では絶対にレンジの切り替えをしないでください。シフトは必ず平地で、駐車ブレーキをかけた状態で行うこと。
- 装置が動作中は機械から離れない。
- 駐車する時は必ず平らな場所に駐車してください。
- アタッチメントの駆動ベルトをパワーユニットに取り付ける時は、必ずエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。すべての可動部が完全に停止するまで、運転席を離れないでください。
- マシンから離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。
- 十分な明るさのない場所で運転しないでください。
- 落雷の危険がある時には運転しないでください。
- アタッチメントから放出される刈りかすなどを、人や建物、動物、車などに向けしないでください。
- 壁やなどにも向けしないでください。壁などに当たった異物が飛んできてけがをする恐れがあります。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは十分に安全に注意してください。
- 締め切った場所では、エンジンを運転しないでください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーに触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどの可燃物がたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- マシンにぶつかったり、当たって跳ね飛ばされたりする可能性のあるものを作業場所に置かないようにしてください。
- 作業場所に、無用の人間やペットなどを近づけないでください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- 作業を始める前に、作業場所をよく観察してください。安全に走行できるか、転倒の危険がないか、わからない場所では運転しないでください。
- 不整地では速度を落としてください。
- 不適切な運転は、重大な人身事故や死亡事故につながります。運転前に、パワーユニットと、使用するアタッチメントを安全に運転操作する方法を十分に理解してください。
- 体調が悪い時や気分がすぐれない時、スマホなどの機器に対応しなければならないことが予想される時、判断力や反射的な動作に影響が出るような物質を摂取した時は、運転しないでください。
- 子供はマシンに非常に興味を持つものです。子供に注意し、作業場所に入れないようにしてください。子供が近づいてきたらマシンを停止させてください。
- パワーユニットやアタッチメント、アクセサリは、公道を走行することを目的としておりません。絶対に公道上や高速道路路上で運転しないでください。
- 道路の近くで運転するときは、安全灯を点灯してください。
- 道路付近での運転や道路を横断する場合は、速度を落として、周囲の交通に十分注意してください。道路や歩道を横断するときは、一旦停止してください。視界が遮られる場所やその近くでは、安全に十分注意してください。

人を乗せない

- パワーユニットに乗れるのはオペレーター一人だけです。他の人を乗せないでください。
- アタッチメントやアクセサリにも、絶対に人を乗せないでください。

傾斜地での運転

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。パワーユニットの運転装置に十分に慣れると共に、緊急ブレーキをいつでも使えるようになってください。
- 折りたたみ式の ROPS が装備されているマシンを傾斜地で運転する時は、ROPS を立ててロックしておく必要があります。
- 傾斜が 15 度を超える場所で（ローレンジが使えるマシンでは）ローレンジで運転してください。
- 傾斜地では、急停止や急発進をしないでください。
- 傾斜地では絶対にハイ・ローレンジの切り替えをしないこと。レンジの切り替えや、パワーユニットをニュートラルにする時には、必ず平地に移動し、駐車ブレーキを掛けてください。
- 濡れた路面やぬかるみなどは、安全性を低下させます。立ち往生する可能性のある場所や転倒する可能性のある場所では運転しないでください。
- 危険な地形や見えにくい危険個所に注意してください。
- 段差、溝、堤防などには近づかないでください。
- 傾斜地で運転している時は、急旋回をしないように注意してください。
- 傾斜地での牽引作業は安全性が低下します。傾斜地では、オーナー/オペレータの責任において、安全に作業ができる限界荷重を決定してください。
- 移動走行する場合は、安定性を高めるため、アタッチメントを下げた状態または地表面にできるだけ近くまで下げてください。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- ・ 傾斜地では、可能な限り登り下り方向で運転してください。傾斜地を走行中に曲がる必要がある場合は、速度を落とし谷側へゆっくりと曲がってください。
- ・ 運転中に燃料切れを起こさないよう、十分な量の燃料を積んでおいてください。推奨燃料積載量は最低でもタンク 1/2 です。

トラックやトレーラによる搬送

- ・ トレーラやトラックにマシンを積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- ・ トレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- ・ 搬送中のマシンは、駐車ブレーキだけで完全に固定することはできません。必ず、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで、パワーユニットとアタッチメントを運搬車両にしっかりと固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。
- ・ 搬送中は、パワーユニットの燃料バルブを閉めておいてください。
- ・ バッテリー遮断スイッチのあるマシンでは、スイッチを OFF にして、通電を遮断してください。

メンテナンス

- ・ 安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。
- ・ デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。
- ・ 新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。
- ・ 交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用してください。
- ・ 修理を行う前に、必ずバッテリー遮断スイッチを OFF 位置にするか、バッテリーを取り外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラス端子に先に接続し、次にマイナス端子に接続してください。
- ・ ボルト、ナット、ねじなどの締結具にゆるみが出ないように維持してください。
- ・ アタッチメントは必ず床面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。清掃、点検、調整、修理などの作業は、すべての可動部が完全に停止したのを確認してから行ってください。
- ・ パワーユニット、アタッチメント、アクセサリの修理方法や調整方法がオペレーターズマニュアルに記載されていない場合、それらの作業は Ventrac 正規販売店が行う必要があります。
- ・ 運転席に人がいるときは、絶対にパワーユニットやアタッチメントに対する作業を行わないでください。
- ・ バッテリーを取り扱うときは、必ず保護めがねを着用してください。
- ・ 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- ・ バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどがたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの排気系統に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- マシンを格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- スプリングには、エネルギーが蓄積されている場合があります。スプリングやバスプリング付き部品を取り外すときは注意してください。
- 駆動系や可動部・回転部に障害物や詰まりなどがあると、エネルギーが蓄積されていることがあり、それらの障害物や詰まりを取り除いた時、駆動系や可動部・回転部が急に動くことがあります。障害物や詰まりを手で取り除こうとしないでください。動力部には手、足、衣服などを近づけないでください。

燃料の安全について

- 人身事故や物損事故を防止するために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質です。
- 喫煙しながらの給油、裸火や火花の近くでの給油はしないでください。
- 給油は必ず屋外で行ってください。
- 燃料や気化した燃料が、裸火、火花、種火などに到達するような屋内で、マシンや燃料容器を保管しないでください。
- 燃料は必ず認定された容器に保存してください。子供の手の届くところに保管しないでください。
- トラックの荷台に敷いたマットなどの絶縁体の上では絶対に燃料の給油をしないでください。容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- 給油は、マシンをトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。マシンを車両に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。エンジンが冷えてから給油してください。
- 傾斜地では絶対に燃料キャップを開けないでください。必ず、平らな場所に駐車してから開けるようにしてください。
- 給油後は、燃料タンクのキャップと燃料容器のキャップを確実に閉めてください。
- 燃料を入れすぎないでください。給油は燃料タンクの補給管の根元までとし、補給管一杯まで入れないでください。燃料タンクに燃料を入れ過ぎると、エンジン側に燃料があふれ出たり、タンクから燃料が漏れたり、燃料蒸気制御装置を損傷させたりする恐れがあります。
- 燃料がこぼれた場合、エンジンを始動させないでください。こぼれた場所からパワーユニットを離し、燃料が完全に気化して拡散してしまうまで、火気の使用を控えてください。
- 燃料タンクから燃料を抜き取る必要がある場合は、屋外で、認定された容器に排出することが必要です。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- 燃料系統には燃料バルブが付いています。マシンを修理工場などへ搬送するとき、屋内に駐車するとき、は燃料系統の整備を行うときは、燃料バルブを閉じてください。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



油圧機器の安全について

- 油圧接続部にゆるみがないように、またすべての油圧ホースとチューブを良好な状態で維持してください。オイル漏れが発見された場合は、必ず修理し、損傷や劣化したホースやチューブを交換してから運転してください。
- 油圧のオイル漏れには、高圧が掛かっている可能性があります。したがって油圧オイルの漏れには特別の注意が必要です。
- オイル漏れ箇所を探すときは、段ボールと拡大鏡を使ってください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているのです、絶対に手などを近づけないでください。高圧で噴出するオイルは皮膚を突き破って重大な傷害を引き起こし、放置すると重篤な合併症や二次感染につながる恐れがあります。万一、油圧オイルが皮膚に入ってしまった場合は、どんなに軽傷でも直ちに医師の診察を受けてください。
- 油圧システムは内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの整備や修理を行う前には、すべてのアタッチメントを外し、駐車ブレーキブレーキをかけ、重量移動システム搭載機ではシステムを解除し、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。パワーユニットのエンジンを停止し、油圧コントロールレバーを左右に動かして補助油圧システム内の油圧を解放し、その後に補助油圧クイックカップラの接続を外してください。

安全関係



HE482 の基本的な安全対策



- アタッチメントの油圧システムは、その内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの保守や修理を行う前には、アタッチメントの補助油圧ホースをパワーユニットから取り外す必要があります。アタッチメントを床面まで降下させてパワーユニットのエンジンを止め、2次 SDLA レバーを左右に何度か動かして補助油圧回路内部の圧力を解放した後に、補助油圧クイックカップラを外してください。
- 掘削作業や資材の移動作業をするときは、走行速度を非常に遅くして行ってください。高速で走行中にパワーバケットが岩石などを噛み込むと、急停止した衝撃でけがをしたり、機械を破損させる恐れがあります。
- パワーバケットを使用する時にパワーユニットがバランスよく安定し、すべての車輪が確実に接地しているようにするためには、後部に十分なバラストを積むか、3点ヒッチに適切なインプレメントを取り付けることが必要となります。3n1 アタッチメント（後部3点ヒッチ用オプション）を使用してパワーバケットを使用する場合には、車両前部に十分なバラストを搭載するか、前ヒッチに適切なアタッチメントを取り付けることが必要となります。

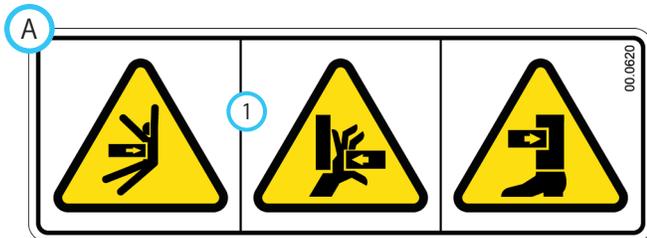
安全関係

安全デカル

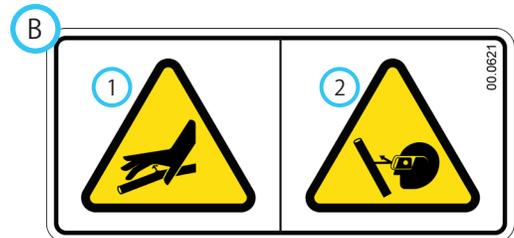
以下の安全デカルは必ずアタッチメントに貼付しておいてください。

安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。

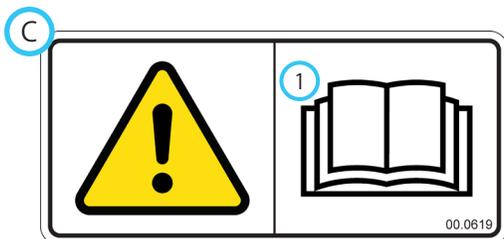
新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。



1. 身体を挟まれたりつぶされたりする危険。



1. 高圧オイルの危険：油圧オイル漏れの疑いがある場合は、体や手を近づけないこと。
2. 油圧オイル漏れを調べる時には、保護めがねを着用すること。



1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと。

デカル	名称	パーツ番号	数量
A	身体を挟まれたりつぶされたりする危険	00.0620	1
B	高圧オイルの危険	00.0621	1
C	オペレーターズマニュアルを読むこと	00.0619	1

一次 SDLA コントロールレバー

一次 SDLA コントロールレバー* でパワーバケットを上下に動かします。レバーを左に動かすと、バケットが上昇します。レバーを右に動かすと、バケットが下降します。レバーがディテントにロックするまでを右一杯に動かすと、バケットがフロート状態になります。

二次 SDLA コントロールレバー

二次 SDLA コントロールレバー* は、バケットの回転動作を制御します。レバーを左に動かすと、バケットの先端が上がって資材を運ぶことができます。レバーを右に動かすと、バケットの先端が下がり資材を落とすことができます。

デュアルフロント油圧補助スイッチ

オプションのデュアルフロント油圧補助スイッチ[△]は、パワーバケットにオプションのグラップルキットが装備されている場合に使用するもので、二次 SDLA コントロールレバーの機能を選択します。

デュアルフロント油圧補助スイッチを押さない状態では、二次 SDLA コントロールレバーは、通常のバケット機能を制御します。

デュアルフロント油圧補助スイッチを押して、二次 SDLA コントロールレバーを右に動かすと、グラップルの爪が開きます。デュアルフロント油圧補助スイッチを押して、二次 SDLA コントロールレバーを左に動かすと、グラップルの爪が閉じます。ボタンから手を離すと通常運転に戻ります。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

[△]オプションのグラップルキットを装備したパワーバケットを操作する場合は、デュアルフロント油圧補助スイッチが必要です。

運転操作全般について

日常点検



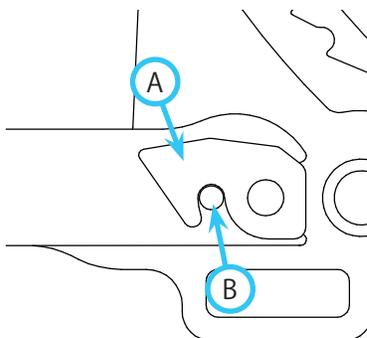
警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

1. 平らな場所にマシンを止め、エンジンを停止し、オイルなどが十分に冷えるのを待つ。
2. パワーユニットとアタッチメントの両方の目視点検を行う。ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。
3. 油圧ホースと「油圧フィッティング」を点検し、接続部がしっかり締まっっていてオイル漏れなどがないことを確認する。

アタッチメントの取り付け

1. アタッチメントのヒッチアームまで、パワーユニットをゆっくり前進させる。パワーユニットの前ヒッチを上下させて昇降アームをアタッチメントのヒッチアームに合わせ、アタッチメントをパワーユニットに接続する。
2. 適切に接続されているのを確認したら、前ヒッチラッチレバー*をロックする。ラッチ (A) がアタッチメントのヒッチアームピン (B) に完全に掛かることが必要。
3. 駐車ブレーキ*を掛け、エンジンを止める。
4. 油圧ホースの端部をきれいにぬぐい、パワーユニットの油圧クイックカップラに接続する。複数組みのホースを接続する場合は、同じ色のホースどうしを接続する (赤カップラには赤ホースという風に)。
5. バケットに負荷が掛かっても機体全体の適切なバランスと安定性が確保できるように、パワーユニット後部にバラストを追加してください。



4000 シリーズ: 後部ヒッチウェイトバーに Ventrac ウェイトを 4 個、または後部 3 ポイントヒッチが装備されている場合には 3 ポイントヒッチに、Ventrac ウェイト 3 個を取り付けます。

3000 シリーズ: 後ウェイトブラケット (オプション) に、Ventrac ウェイト 2 個を取り付けます。後ウェイトブラケットは、すべての 3000 シリーズパワーユニットに装着可能です。

アタッチメントの取り外し

1. 平らな場所でパワーユニットを停止させて駐車ブレーキ*を掛ける。
2. パワーユニットの重量移動を解除する。
3. アタッチメントを地表面まで降下させる。
4. パワーユニットのエンジンを止める。
5. 油圧クイックカップラをパワーユニットから外し、ホースを丸めてバケットに掛ける。オプションのグラブプルキットには、右側の取り付けブラケットにホース収納用の穴があります。
6. 前ヒッチのロッキングレバー*を解除する。
7. パワーユニットのエンジンを再始動し、ゆっくりとバックしてアタッチメントから離れる。アタッチメントが外れにくい時は、ステアリングハンドルを左右に軽く回してタイヤを揺るとよい。
8. **3000 シリーズ:** 後ウェイトブラケットからウェイトを取り外す。

バラ資材や軟弱資材をすくい取る操作

速度レンジ (ハイ・ロー) 切り替えのできるパワーユニットは、ローレンジで運転してください。

前ヒッチを下げ、バケットを前に傾けて、バケットの縁を希望の高さ (普通は地面すれすれ) まで下げます。地面から直接すくい上げる場合には、バケットが地面にの凹凸に従って接地するように、一次 SDLA レバーをフロート位置にセットしておくのがよいでしょう。注: バケットをフロート状態にするには、重量移動を解除する必要があります。

バケットの後端が地面を引きずらないように、バケットの前端をごくわずかに下に傾けませう。

この状態でゆっくり前進して資材にバケットを突き刺しませう。高速で資材の山に突進しないでください。



警告

大量の雪や隠れた障害物などに不意にぶつかると、けがをしたり機械を損傷したりする恐れがある。

高速で資材に突進しないでください。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

硬い地面を削る場合は、一次 SDLA レバーをフロート設定から解し、バケットを少し下げて、先端部に少し圧力をかけてください。注：これにより、パワーユニットのフロントアクスルに掛かる重量が少し減るので、パワーユニットのステアリング能力が低下します。

警告

前輪が地面から浮いてしまうと、ステアリング不能になるか、ステアリング能力が大きく低下する。
押圧をかけるときは、前輪を地面から浮かせないように注意すること。

ゆっくり前進を続けてバケットに資材を入れながら、バケットを少しずつ上げ始めます。資材が十分に入ったところでバケットの前端を上げてください。

たくさんすくい取ろうとして立ち往生してしまった場合は、前進を停止するか少しバックして、バケットの突進力を減らして、すくい取る量を減らしてください。

パワーユニットに重量移動システムが装備されている場合は、必要に応じて重量移動を利用することにより、持ち上げや掘り下げ能力を高めることができます。注：前ヒッチのフロート機能は、このモードでは機能しません。

資材を別の場所に運ぶときは、地形や路面状況に応じた安全な速度で運搬してください。

バケット前端に爪(オプション)を取り付けることができます。硬く締まった地面を突き破ったりするのに役立ちます。

バラ資材を広げたり均したりする操作

資材を広げたり均したりする場合、前進時にはバケット前方を 0-15度ほど下げます。

後退しながら、広げたり均したりする時は、バケット前方を 30-45度ほど下げます。きれいに広げる(均す)ためには、一度に大量の資材を動かそうとするのではなく、少な目の量を、バックで引きずるように広げる(均す)ようにするのが良いとされています。

グラップル(オプション)を使って丸太や枝をつかんで運ぶ操作

警告

バケットやグラップルに過大な負荷がかかると、安定や安全が損なわれる恐れがある。

負荷が大きすぎてマシンの安定が損なわれると思われる場合は、負荷を下げて作業を行うこと。

グラップルの爪を開き、バケットの角度や高さを調整しながらゆっくり前進して、丸太や枝を挟むようにグラップルを下げます。丸太や枝をうまくつかめたら、グラップルの爪を閉じ、二次 SDLA レバーを左に動かしながらボタンを使って、バケットを後ろに傾けて持ち上げる操作と、丸太や枝をさらに強い力でつかむ操作を行います。丸太や枝をグラップルでしっかりつかんだ状態で、別の場所に運びます。

資材を別の場所に運ぶときは、地形や路面状況に応じた安全な速度で運搬してください。運搬する丸太や枝を周囲に引っ掛けないように注意しましょう。道幅よりも長い資材を運ぶのは危険です。

目的の場所に着いたら、バケットを前に傾けて、グラップルの爪を開いて丸太や枝を降ろします。

整備

警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

注意事項

交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用すること。

機体の清掃と一般的な保守整備作業

いつでも最高の性能を発揮できるよう、使用後は毎回機体の洗浄を行い、泥、ほこり、意思、マルチ、土などを除去しておきましょう。

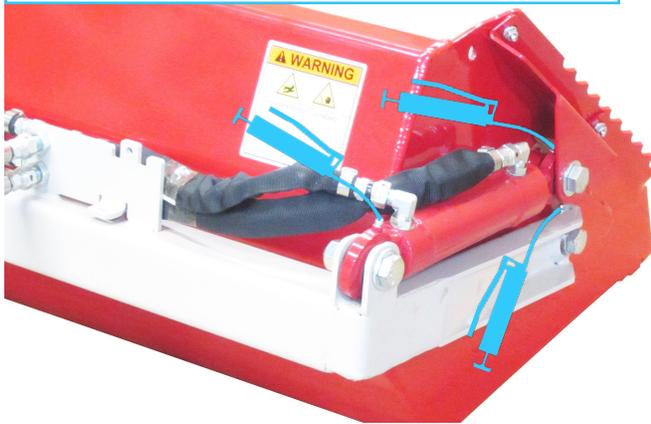
潤滑ポイント

以下の箇所には、リチウム系複合 NLGI #2 グリスによる潤滑を行ってください。

グリスフィッティングにグリスガンを接続する前に、グリスフィッティングの汚れを拭き取ってください。

整備間隔とグリスの量については、定期整備表を参照してください。

シリンダの端部とバケットのピボット(右側と左側)



シリンダの端部とブッシュ(グラブプル; オプション)

格納保管

アタッチメントの格納保管準備

1. アタッチメントを掃除する;付着している汚れ、泥、石、マルチなどのごみを取り除く。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. 油圧ホースとフィッティングを点検し、接続部がしっかり締まっていてオイル漏れがないことを確認する。
4. 安全デカルを点検する。色あせ、判読不能、または欠落しているデカルは交換する。
5. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。
6. 塗装部分に剥がれ、ひっかき傷、錆などがいないか点検する。必要に応じてタッチアップする。

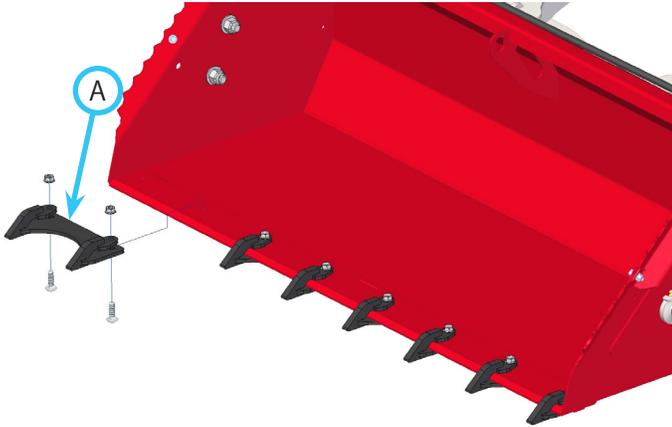
保管状態から通常使用状態への復帰

1. アタッチメントにたまっているごみやほこりを除去する。
2. このマニュアルの「日常点検」の手順に従って、アタッチメントの点検を行う。
3. 試運転を行って、すべてのコンポーネントとシステムが正常に動作することを確認する。

整備

パワーバケット用の爪 (オプション) の取り付け

1. パワーユニットとパワーバケットを水平な床の上に停止させた後、パワーバケットの下に角材などを置ける程度の高さまでバケットを上昇させる。
2. パワーバケットの下に 10 cm 角の木材ブロックなどの支えを置き、その上にバケットを降ろす。
3. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
4. バケットの一方の端から順に、爪 (A) を取り付ける。



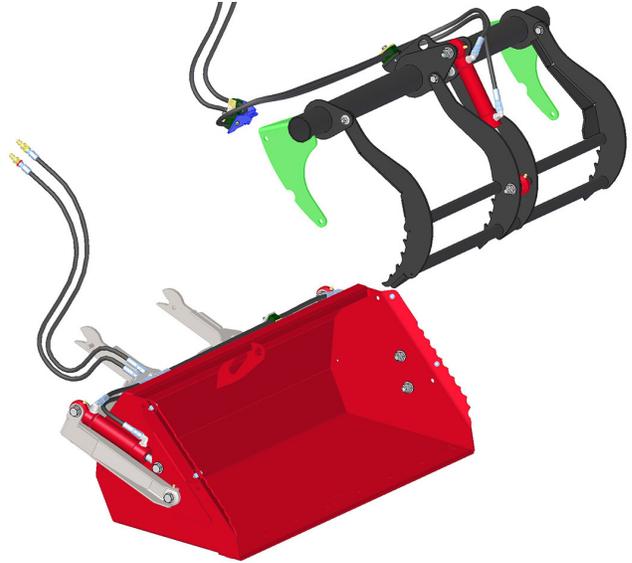
5. 爪に挿入した 2 本のキャリッジボルト ($\frac{3}{8} \times 1\frac{1}{4}$ ") で、爪をパワーバケットに固定する。フランジナット (2 個) で固定し、42 Nm (4.3 kg.m = 31 ft-lbs) にトルク締めする。

パワーバケット用の爪の取り外し

1. パワーユニットとパワーバケットを水平な床の上に停止させた後、パワーバケットの下に角材などを置ける程度の高さまでバケットを上昇させる。
2. パワーバケットの下に 10 cm 角の木材ブロックなどの支えを置き、その上にバケットを降ろす。
3. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
4. キャリッジボルトとフランジナットを外し、パワーバケット前端から爪を外す。

グラップル (オプション) の取り付け

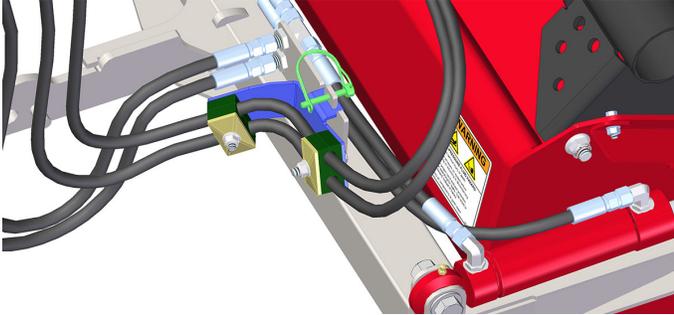
1. パワーバケットを平らな場所に置く。
2. 2人でグラップルアセンブリを持ち上げ、グラップルフレームブラケット (図中で緑色の部分) を、バケット内側の左右の所定の位置にセットする。



3. 左右のグラップルフレームブラケットからバケットの側面にキャリッジボルト ($1\frac{1}{2} \times 1\frac{1}{2}$ ") を 2 本通し、ナイロンロックフランジナット ($\frac{1}{2}$ ") で固定する。締め付けトルクは 102 Nm (7.6 kg.m = 75 ft-lb)。

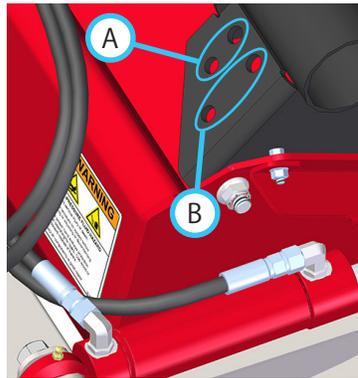


4. ホース/クランプ取り付けブラケット (図中の青色) をバケットのフレームの右側ホースクランププレートに取り付ける。ブラケットのタブとスロットを合わせて、所定位置まで下げる。タブの穴に安全スナップピン (図中の緑色; 1/4") を通して、ホース/クランプ取り付けブラケットを固定する。



グラップルの取り外しと保管

1. アタッチメントを掃除する; 付着している汚れ、泥、石、マルチなどのごみを取り除く。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. 油圧ホースとフィッティングを点検し、接続部がしっかり締まっていてオイル漏れがないことを確認する。
4. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。
5. ホース/クランプ取り付けブラケットから安全スナップピン (1/4") を外し、ホース/クランプ取り付けブラケットをバケットのフレームから外す。
6. 右側のグラップル取り付けブラケットの収納穴 (A) に、油圧ホースの端を収納する。
7. グラップルをバケットに固定しているキャリッジボルト (1/2") 4本とロックナットを外す。
8. 外したボルトを、左右の取付ブラケットの収納穴 (B) に入れ、ナットで固定する。
9. バケットからグラップルを外し、清潔で乾燥した場所で保管する。



整備

整備スケジュール

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと
그리스と注油：潤滑の章を参照																									
シリンダの端部	4	△	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
バケットのピボット	2	△	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
シリンダの端部(グラッブル;オプション)	2	△	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
グラッブルのブッシュ(スプレー潤滑)	4		**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
点検																									
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認				✓																					
油圧ホースとフィッティングの点検				✓																					
安全デカルの点検				✓																					
^新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																									
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																									

定期整備チェックリスト

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと
그리스と注油：潤滑の章を参照																									
シリンダの端部	4	△	**																						
バケットのピボット	2	△	**																						
シリンダの端部(グラッブル;オプション)	2	△	**																						
グラッブルのブッシュ(スプレー潤滑)	4		**																						
点検																									
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認																									
油圧ホースとフィッティングの点検																									
安全デカルの点検																									
^新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																									
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																									

仕様

HE482 の諸元

全高	40.6 cm
全高(グラップル装着時)	58.4 cm
全長	85 cm
全長(爪装着時)	89.5 cm
全長(グラップル装着時)	99.7 cm
全幅	134.6 cm
作業幅	122 cm
重量 [△]	86.2 kg
重量(グラップル装着時 [△])	120.2 kg
容量	0.17 m ³
容量(バケット延長時)	0.28 m ³
グラップル開口部	66 cm

[△] オプションの爪を取り付けた場合は 4.5 kg 増加。

パワーバケットの角度および地上高

最大高さにおけるダンプ角度	51度*
上昇位置における地上高(3000 シリーズ)	21.6 cm*
上昇位置における地上高(4000 シリーズ)	23.5 cm*
ダンプ位置における地上高(3000 シリーズ)	16.8 cm*
上昇位置における地上高(4000 シリーズ)	18.7 cm*

*トラクタに標準タイヤを装着した場合の寸法です。値は装着されているオプションやタイヤ空気圧によって異なる場合があります。

特長

- 先端部に硬化処理
- サイドエッジに鋸歯加工
- 油圧シリンダガード付き
- 全機能を油圧コントロール(オプションのグラップルを含む)
- オプションとして掘削爪
- オプションとしてグラップル
- オプションとしてバケット延長部

最新のオペレーターズマニュアルはこちらへ：
ventrac.com/manuals
パーツマニュアルもダウンロードできます。

すべてのマニュアル
を見る

